

海外邦人・渡航者への医療支援活動

—ジャムズネット発足の経緯と活動

在カナダ日本国大使館
外務省医務官 **仲本光一**
Nakamoto, Kouichi

外務省医務官の基本的業務は、在外公館に勤務する外務省職員とその家族の健康管理、現地医療事情の調査報告だが、事情に応じて在留邦人や渡航者からの医療相談も受けている。近年では、海外での災害やテロなどの緊急事態に医務官が直接支援をする機会も増えている。ここでは、在留邦人支援活動の中で生まれたジャムズネットの活動を紹介したい。

地域で異なる海外邦人医療事情

最初の任地ミャンマーは、邦人数百人余りであった。医療レベルは最悪で、唯一の日本人医師である医務官は邦人にとって“頼りにせざるを得ない”存在であり、日常的に外科・内科・小児科・産婦人科など多様な相談や初期対応を行っていた。

次の任地インドネシアのジャカルタには日本人の使用に耐えられる設備の良い病院があり、また海外邦人医療基金が日本人会診療所を設置していたため、医務官が邦人から相談を受ける例は少なかった。また、邦人数1万人と多く、母子支援の自助団体であるマザーズクラブが情報誌の発行や日本人医師による小児検診の実施などの活動を行っていた。

同地では母子のメンタルヘルス相談事例が増加し、臨床心理士などが中心となり自助団体“ジャカルタカウンセリング”が設立された。私も当初から参加し、邦人へのメンタルヘルス支援

を行っていた。

その後いったん帰国したが、この時期にハワイ沖でえひめ丸海難事故、米国同時多発テロ、北朝鮮拉致被害者帰国などの事例が発生し、医務官が邦人支援のために積極的に参加する前例となった。

次任地インドは感染症の宝庫と呼ばれる厳しい任地であったが、一方では医療ツーリズムが台頭し、周辺国などから患者を多く受け入れ始めている状況を目の当たりにした。インドでは、麻薬に溺れるバックパッカー支援などの事例で、領事と共に現場対応した。

次任地は、米国のニューヨーク総領事館であった。ニューヨーク周辺には在留邦人が6万人以上おり、日系クリニックや日本人カウンセラーも多数開業しており、医務官が邦人から直接相談を受けるケースはほとんどなかった。しかし医療先進国の米国においても、邦人は言葉や文化の問題、システムの違い、医療費の高さなどで苦労しており、こうした問題を支援するためにさまざまな自助団体ができていた。また40年以上の歴史を持つ米国日本人医師会がNYに本部を置き、100人以上の日本人・日系人医師・歯科医師が参加していた。

マイノリティを痛感した9・11事件

2001年に発生した同時多発テロ9・11は、在留邦人に大きな陰を落とした。米国在住の邦



人の歴史は古く、米国における日本人の地位は確固たるものであり、差別や不便を感じている邦人は、9・11以前は“表面上”少なかった。しかし9・11国家テロ事件発生当初、真珠湾攻撃の再来などという報道が席卷したことも影響し、テロへの報復に一丸となる米国を見て、邦人は“違和感”と一種の“差別感”を感じた。また、人種別人口では21番目であるため、有事において日本語による情報が米国側から提供されることはなく、情報格差も実感し、邦人は“緊急事態において災害弱者・マイノリティ”であることを強く意識させられた。また在留邦人の高齢化も問題になっており、日本語による情報・サービスに対するニーズが増加していた。

医療で邦人をつなぐジャムズネット

こうした背景の中、米国日本人医師会やNY日系人会を中心とする多数の自助団体が邦人支援活動をさらに展開するようになったが、団体間の横のつながりは少なかった。当時の米国日本人医師会会長である本間俊一教授（コロンビア大学循環器科）の提案があり、総領事館が側面支援をするかたちで、多数の自助団体の連携が始まった。それが2006年1月に設立されたジャムズネット（邦人医療支援ネットワーク：JAMSNET）であり、筆者はその設立を総領事館の側から支援した。その後、ジャムズネットはさまざまな啓発活動を行うようになった。セントラルパークで開催されたお祭り（ジャパンデー）で無料の健康チェックを行ったり、日系人会と共同でシニアウィーク、ヘルスウィークなどの医療イベントも開催した。この6年間で、すでに1万5000人あまりにアウトリーチしており、NY邦人にとっては不可欠な存在になりつつある。

2009年1月には、帰国者を中心としたメン



ジャムズネット東京 NPO 承認記念講演会
（東京医科大臨床講堂、2012年7月29日）

バーでジャムズネット東京が設立され、ホームページ上での医療・保健・福祉・教育・生活情報の提供、メールを通じた個別相談、イベント支援、学生交流等を行っている。2011年3月に発生した東日本大震災以後は、NYを中心とした邦人の“思いをつなぐ”ため、被災地支援活動も行っている。

ジャムズネット東京の活動は以下の4点に集約される。①医療他プロの情報を一般の方に平易なかたちでつなぐ、②海外邦人・渡航者の悩みをプロにつなぐ、③世界の邦人支援団体同士をつなぐ、④海外邦人の日本への思いをつなぐ。

筆者が医務官になった20年前に比べて在留邦人や渡航者に対する支援機関は増加し、ネットを通じた情報提供もあまた存在する。しかし、その多くはマクロ的・一般情報の提供にとどまり、ミクロ的・個別の支援は依然として現地の自助団体に頼らざるを得ない。しかし世界各地の邦人自助団体は、人的資源や、資金の少なさなどの理由により常に消滅の危機にある。外務省領事局などともつながりが深いジャムズネットやジャムズネット東京がハブとなり、世界中の邦人支援のためのネットワークを形成することが重要であると考えている。 ■

注：本稿は筆者の個人的見解である。

◆ジャムズネット：<http://jamsnet.org/>

◆ジャムズネット東京：<http://jamsnettokyo.org/>